平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
（別添資料）

平成２２年６月

鳴門教育大学

目　　次

資料 002-01「教育実践学を中核とした教員養成コアカリキュラム」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
資料 002-02「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ２－４）・・・・・・・・・・・1
（平成２２年３月実施：学部卒業生）
資料 002-03「学校教育学部卒業者の進路状況」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
資料 003-01「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ６－２）・・・・・・・・・・・3
（平成２２年３月実施：学部卒業生）
資料 003-02「平成２０年度学生による授業評価実施報告書」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（抜粋：教養基礎科目（講義）に対する評価結果）
資料 004-01「教育実習に関するアンケート　平成２１年度実施分析報告」（抜粋：Ｑ３）・・・・・・5
資料 005-01「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ２－３）・・・・・・・・・・・6
（平成２２年３月実施：学部卒業生）
資料 005-02「平成２０年度学生による授業評価実施報告書（学校教育学部）」（抜粋：阿波学）・・・・7
資料 009-01「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ３－２）・・・・・・・・・・・8
（平成２２年３月実施：大学院修了生）
資料 009-02「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ３－３）・・・・・・・・・・・8
（平成２２年３月実施：教職大学院修了生）
資料 010-01「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ３－１）・・・・・・・・・・・9
（平成２２年３月実施：大学院修了生）
資料 014-01「教職大学院生（平成２０入学現職教員）到達状況推移」・・・・・・・・・・・・・・・・・10
資料 015-01「自己点検・評価制度検証結果報告書（平成２２年３月）」（抜粋）・・・・・・・・・・・・11
資料 016-01「教育評価結果報告書（平成２０年１月）」（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
資料 017-01「学校教育学部入学者選抜状況」（平成１９年度・平成２２年度）・・・・・・・・・・・・・13
資料 019-01「大学院学校教育研究科入学者選抜状況」（平成２１年度・平成２２年度）・・・・・・・・・14
資料 020-01「大学院学校教育研究科学生募集要項（平成２１年度，平成２２年度）」（抜粋）・・・・・15
資料 023-01「学校の危機管理（シラバス抜粋）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
資料 023-02「予防教育科学教育研究センター活動概要」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
資料 025-01「ティーム・ティーチングに関する調査に基づく分析と検証」・・・・・・・・・・・・・・・18
資料 026-01「平成２２年度入学者用学修キャリアノート」（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
資料 027-01「オフィスアワーに関する調査に基づく分析と検証」（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・20
資料 027-02「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ５）・・・・・・・・・・・・・21
（平成２２年３月実施：大学院修了生）
資料 027-03「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ４）・・・・・・・・・・・・・21
（平成２２年３月実施：学部修了生）
資料 039-01「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ７－１，Ｑ７－３）・・・・・・・・22
（平成２２年３月実施：教職大学院修了生）
資料 050-01「センター再編構想図」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
資料 050-02「学校教育研究科の教育組織の改編」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
資料 051-01「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（抜粋：Ｑ２－２）・・・・・・・・・・・25
（平成２２年３月実施：学部卒業生）
資料 052-01「徳島県教育委員会と国立大学法人鳴門教育大学の人事交流に関する協定書」・・・・・・26
資料 054-01「平成１９年度学生による授業評価実施報告書（学校教育学部）」（抜粋：初等中等教科教育実践Ⅰ）・・・27,28
「平成２０年度学生による授業評価実施報告書（学校教育学部）」（抜粋：初等中等教科教育実践Ⅰ）
資料 066-01「鳴門教育大学入学料，授業料及び寄宿料の免除等に関する規程」（抜粋）・・・・・・・・29
資料 066-02「教職大学院生（現職教員）支援基金について（お知らせ）」・・・・・・・・・・・・・・・29
資料 077-01「教育支援講師・アドバイザー等派遣事業テーマ一覧」・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
資料 107-01「鳴門教育大学国際交流基金奨学金支給実績」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
資料 112-01「鳴門教育大学国際交流事業を援助する会における支援口数（平成１６年度～２１年度）」・・・33

資料　002－01

「教育実践学を中核とした教員養成コア・カリキュラム」

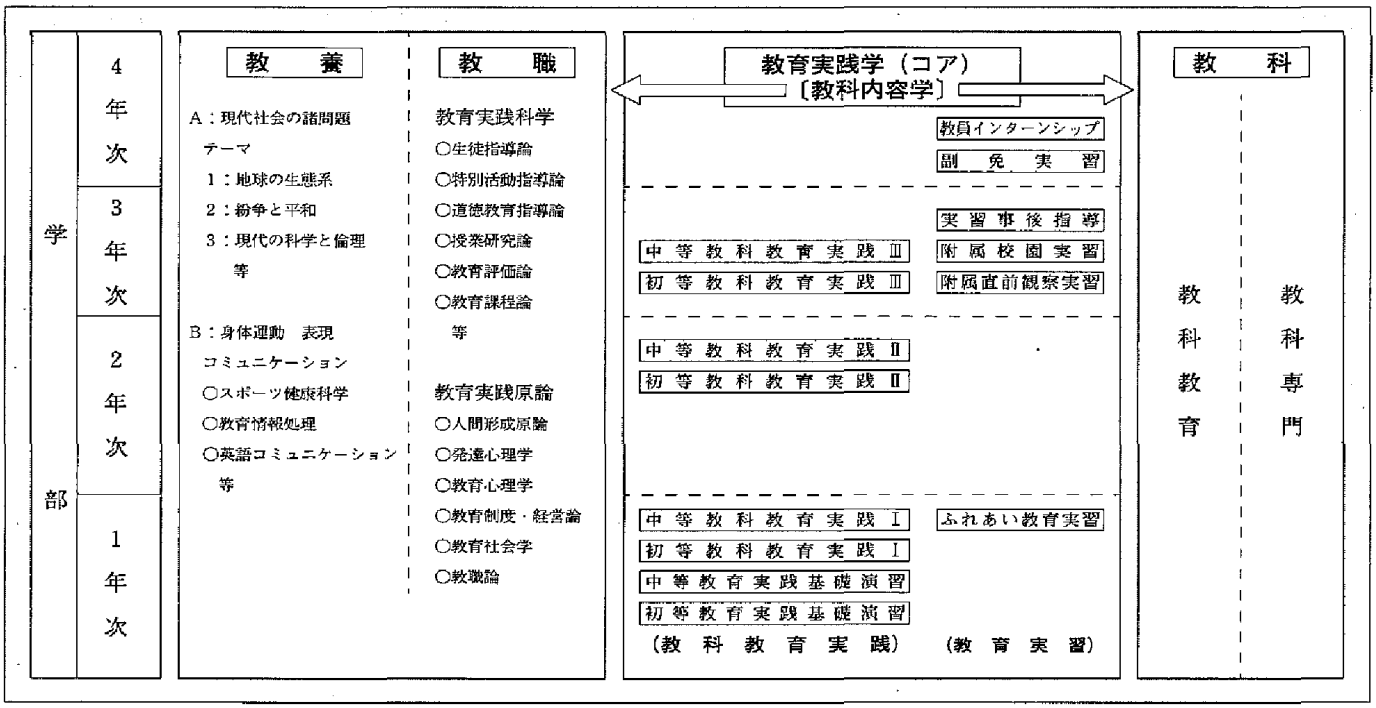


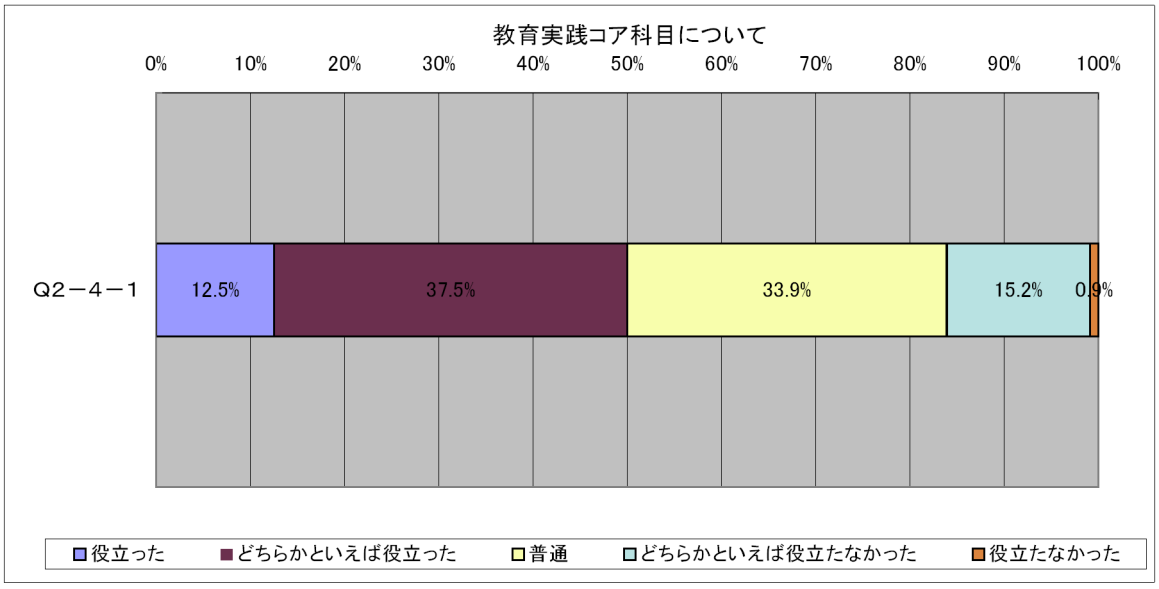
図４．教育実践学を中核とした教員養成コア・カリキュラム（学生から見た図）

（出典　教員養成コア・カリキュラムP23）

資料　002－02

鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計（平成22年3月実施：学部卒業生）

Q2－4　教育実践コア科目について	役立った		どちらかといえば役立った		普通		どちらかといえば役立たなかった		役立たなかった		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q2－4－1　教育実践コア科目は、教師として必要な実践的指導力を身につけるのに役立ちましたか	14	12.5%	42	37.5%	38	33.9%	17	15.2%	1	0.9%	112



資料　002－03

学校教育学部卒業者の進路状況

（毎年９月３０日現在）

区分	卒業者数	教員就職者							教員以外の就職者	進学者	その他	教員就職率		順位
		小学校	中学校	高等学校	幼稚園	特別支援学校（盲・聾・養護学校）	小計	正規教員就職率					進学者数を除く	
平成17年3月卒業（平成16年度卒業）	１０１	33(16)	12(7)	6(6)	6(4)	6(2)	63(35)	44.4%	14	16	8	62.4%	74.1%	10
平成18年3月卒業（平成17年度卒業）	１１８	46(11)	11(8)	2(1)	10(2)	5(1)	74(23)	68.9%	20	15	9	62.7%	71.8%	9
平成19年3月卒業（平成18年度卒業）	１００	38(14)	15(10)	2(2)	4(1)	5(2)	64(29)	54.7%	13	18	5	64.0%	78.0%	10
平成20年3月卒業（平成19年度卒業）	１２１	58(25)	15(11)	2(2)	5(1)	1(1)	81(40)	50.6%	19	16	5	66.9%	77.1%	5
平成21年3月卒業（平成20年度卒業）	１１３	53(15)	14(9)	3(1)	2(1)	2(2)	74(28)	62.2%	14	22	3	65.5%	81.3%	5

（平成２２年５月１日現在）

区分	卒業者数	教員就職者							教員臨時待ち	教員以外の就職者	進学者	その他	教員就職率	
		小学校	中学校	高等学校	幼稚園	特別支援学校	小計	正規教員就職率						進学者数を除く
平成２２年３月卒業（平成21年度卒業）	１１５	58(20)	17(6)	7(3)	4(2)	3(3)	89(34)	61.8%	2	14	7	3	77.39%	82.41%

注①　この状況報告は，毎年度３月卒業者を対象としている。
　②（　）内の数は，期限付教員を内数で示す。

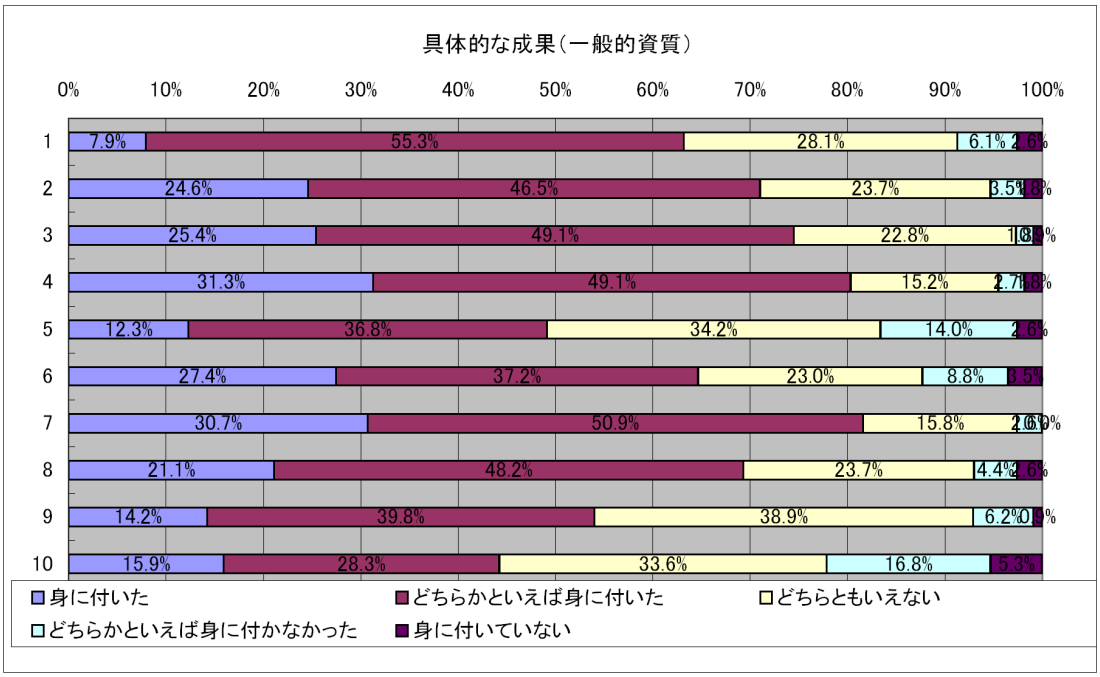
（参考）＜平成２２年３月卒業＞
教員以外の就職者内訳：警察１，保育所２（内臨時１），公務員臨時２，国立大学法人１，企業等８
その他の内訳　　：未就職２，アルバイト１

（出典　学生課資料：「学校教育学部卒業者の進路状況」

鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計 （平成22年3月実施：学部卒業生）

Q6－2　具体的な成果として

一般的資質	身に付いた 件数	身に付いた %	どちらかといえば身に付いた 件数	どちらかといえば身に付いた %	どちらともいえない 件数	どちらともいえない %	どちらかといえば身に付かなかった 件数	どちらかといえば身に付かなかった %	身に付いていない 件数	身に付いていない %	有効回答件数
1 幅広く豊かな教養	9	7.9%	63	55.3%	32	28.1%	7	6.1%	3	2.6%	114
2 強い責任感	28	24.6%	53	46.5%	27	23.7%	4	3.5%	2	1.8%	114
3 コミュニケーション能力・折衝能力	29	25.4%	56	49.1%	26	22.8%	2	1.8%	1	0.9%	114
4 他者に対する人間的愛情	35	31.3%	55	49.1%	17	15.2%	3	2.7%	2	1.8%	112
5 創造性	14	12.3%	42	36.8%	39	34.2%	16	14.0%	3	2.6%	114
6 精神的強さ	31	27.4%	42	37.2%	26	23.0%	10	8.8%	4	3.5%	113
7 協調性	35	30.7%	58	50.9%	18	15.8%	3	2.6%	0	0.0%	114
8 社会規範・マナー	24	21.1%	55	48.2%	27	23.7%	5	4.4%	3	2.6%	114
9 リーダーシップ・実行力	16	14.2%	45	39.8%	44	38.9%	7	6.2%	1	0.9%	113
10 情報活用能力	18	15.9%	32	28.3%	38	33.6%	19	16.8%	6	5.3%	113



「平成２０年度　学生による授業評価実施報告書」（抜粋）

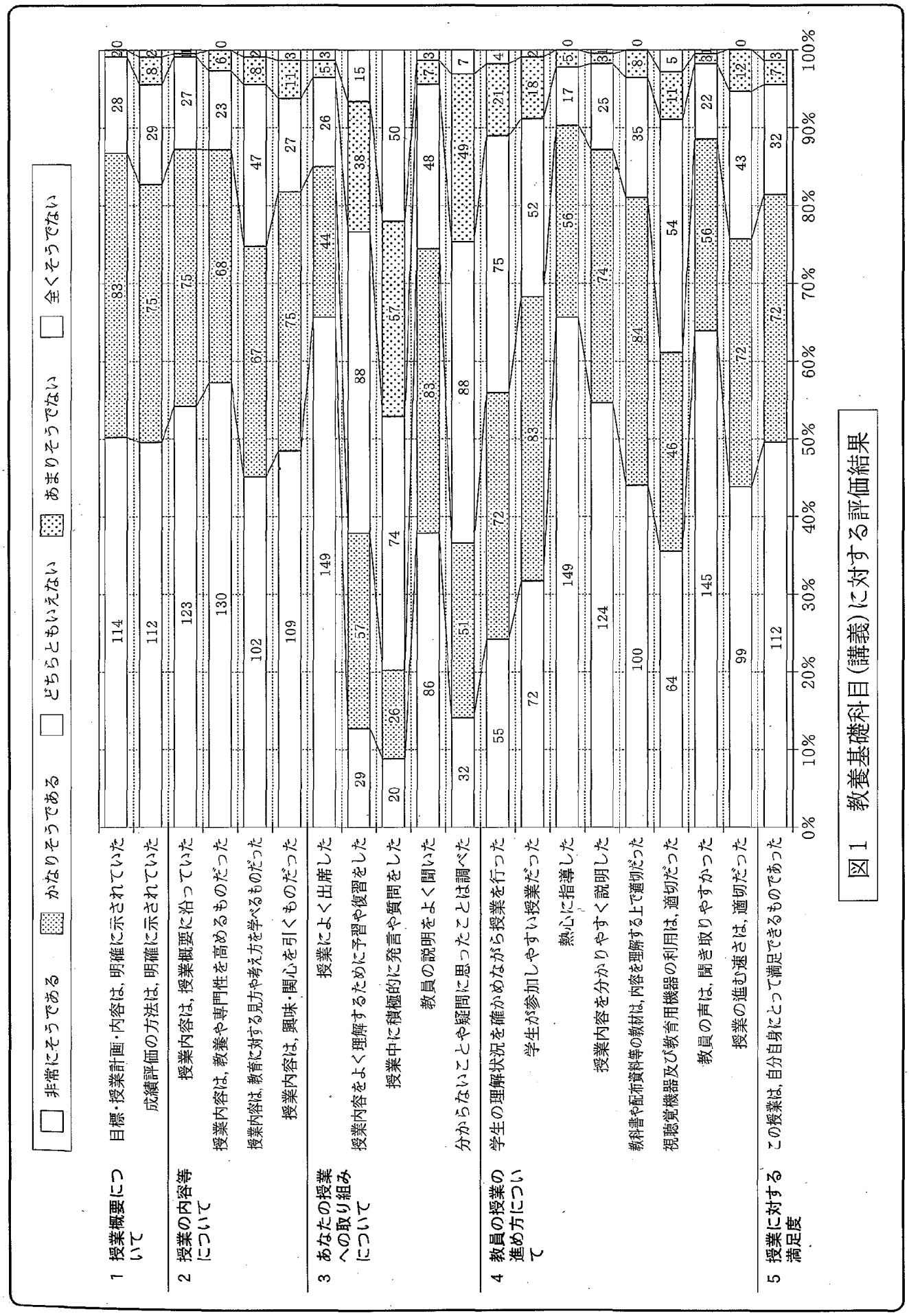
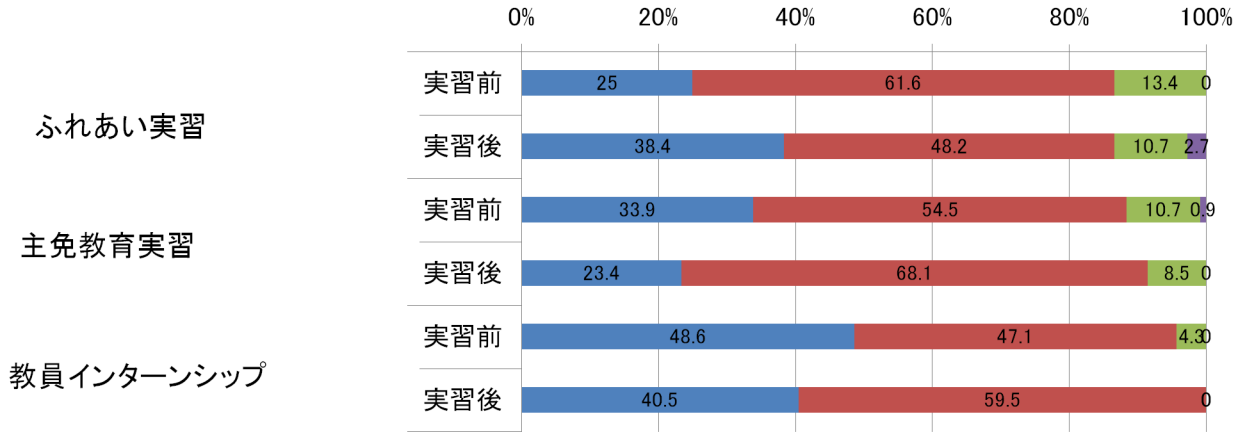


図１　教養基礎科目（講義）に対する評価結果

「教育実習に関するアンケート　平成２１年度実施分析報告」（抜粋）

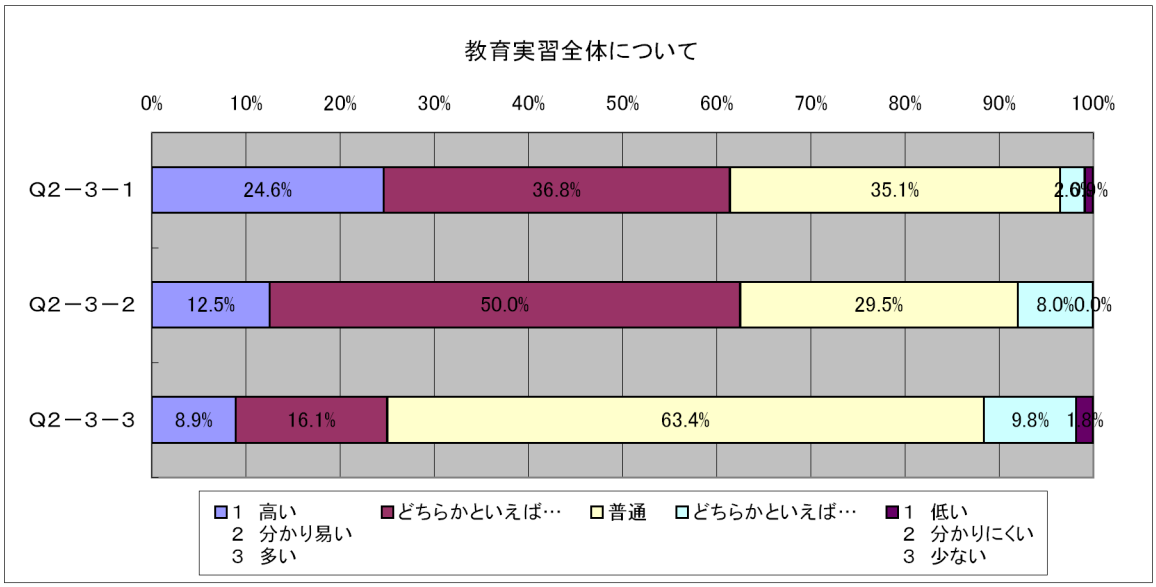
Q3. 教師の役割や教職の意義，重要性を理解している。

		①非常にそうである		②かなりそうである		③あまりそうでない		④全くそうでない		有効回答件数
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
ふれあい実習	実習前	28	25	69	61.6	15	13.4	0	0	112
	実習後	43	38.4	54	48.2	12	10.7	3	2.7	112
主免教育実習	実習前	38	33.9	61	54.5	12	10.7	1	0.9	112
	実習後	22	23.4	64	68.1	8	8.5	0	0	94
教員インターンシップ	実習前	34	48.6	33	47.1	3	4.3	0	0	70
	実習後	32	40.5	47	59.5	0	0	0	0	79



鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計 （平成22年3月実施：学部卒業生）

Q2－3　教育実習全体について	1 高い 2 分かり易い 3 多い		どちらかといえば…		普通		どちらかといえば…		1 低い 2 分かりにくい 3 少ない		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q2－3－1 教育実習の内容のレベルについて	28	24.6%	42	36.8%	40	35.1%	3	2.6%	1	0.9%	114
Q2－3－2 教育実習の内容の理解について	14	12.5%	56	50.0%	33	29.5%	9	8.0%	0	0.0%	112
Q2－3－3 必修とされる教育実習の時間数について	10	8.9%	18	16.1%	71	63.4%	11	9.8%	2	1.8%	112

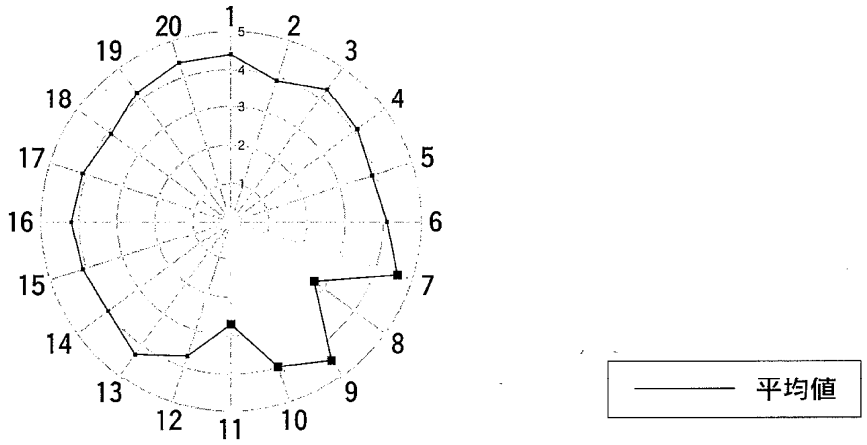


「平成２０年度学生による授業評価実施報告書（学校教育学部）」（抜粋）

授業科目名　阿波学
評価実施日　平成20年９月24日

回答者数　98名

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（科目別）
1　授業概要について	(1)　目標・授業計画・内容は，明確に示されていた。	53	33	9	3	0	0	4.4
	(2)　成績評価の方法は，明確に示されていた。	30	27	32	6	0	3	3.9
2　授業の内容等について	(3)　授業内容は，授業概要に沿っていた。	53	26	15	2	1	1	4.3
	(4)　授業内容は，教養や専門性を高めるものだった。	43	26	21	6	1	1	4.1
	(5)　授業内容は，教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	32	30	26	7	2	1	3.9
	(6)　授業内容は，興味・関心を引くものだった。	42	30	21	1	3	1	4.1
3　あなたの授業への取り組みについて	(7)　授業によく出席した。	73	14	9	1	0	1	4.6
	(8)　授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	10	16	24	27	20	1	2.7
	(9)　積極的に実験，実習，実技等に取り組んだ。	59	26	9	1	1	2	4.5
	(10)　教員の説明をよく聞いた。	40	28	21	4	3	2	4.0
	(11)　分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	18	29	17	23	2	2.7
4　教員の授業の進め方について	(12)　学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	29	30	23	9	5	2	3.7
	(13)　熱心に指導した。	53	27	13	1	2	2	4.3
	(14)　授業内容を分かりやすく説明した。	35	33	24	2	1	3	4.0
	(15)　教科書や配布資料等の教材は，内容を理解する上で適切だった。	39	29	22	3	2	3	4.1
	(16)　設備，器材，用具等の利用は，適切だった。	44	30	14	7	0	3	4.2
	(17)　教員の声は，聞き取りやすかった。	43	20	27	4	0	4	4.1
	(18)　与えられた課題のレベルや分量は，適切だった。	29	32	27	5	2	3	3.9
	(19)　安全に対する指導と配慮は，適切だった。	43	32	14	6	0	3	4.2
5　授業に対する満足度	(20)　この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	50	31	13	0	1	3	4.4



教員のコメント

平成19年度までのシラバスを刷新し，特色的な授業内容を構成して開講した。すなわち，四国の文化アイデンティティである遍路について，学生が講義形式の授業によって基礎理解を得るとともに，実際に２泊３日で遍路道を歩いて実践的・体験的に学ぶことをねらいとした。基礎と実践を組みあわせた授業を展開した。

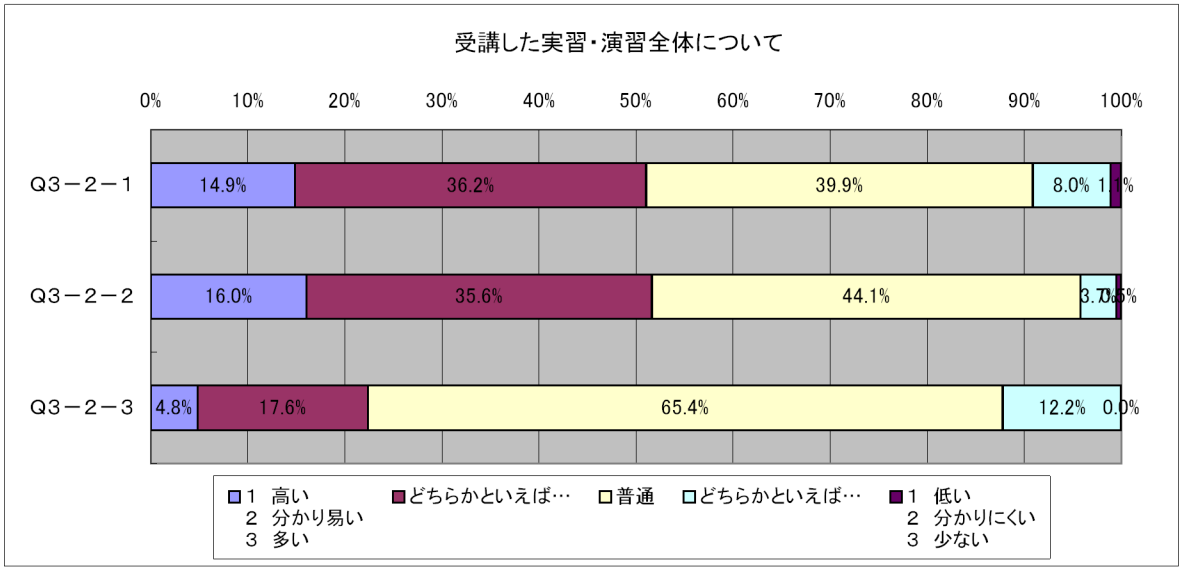
項目１（平均値4.4）にあらわれているように，学生は本授業の有する特色的なねらいを理解している。そして，学生が授業に対する高い満足度を示しているのは（項目20：平均値4.4），本授業で提供されたプログラムとその意義が支持されたことをあらわす。

取り組むべき課題は，項目８（平均値2.7）や同11（同2.7）の結果に明らかなように，学生の学習活動を授業外へも展開させるためにはどうしたらよいかである。図書館には阿波学コーナーが設置され，学習環境は相当程度整っている。学生の興味や関心が単なる気分でおわらず，どう具体的な行動へと促しうるか。今後も授業改善につとめたい。

資料　009－01

鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計 （平成22年3月実施：大学院修了生）

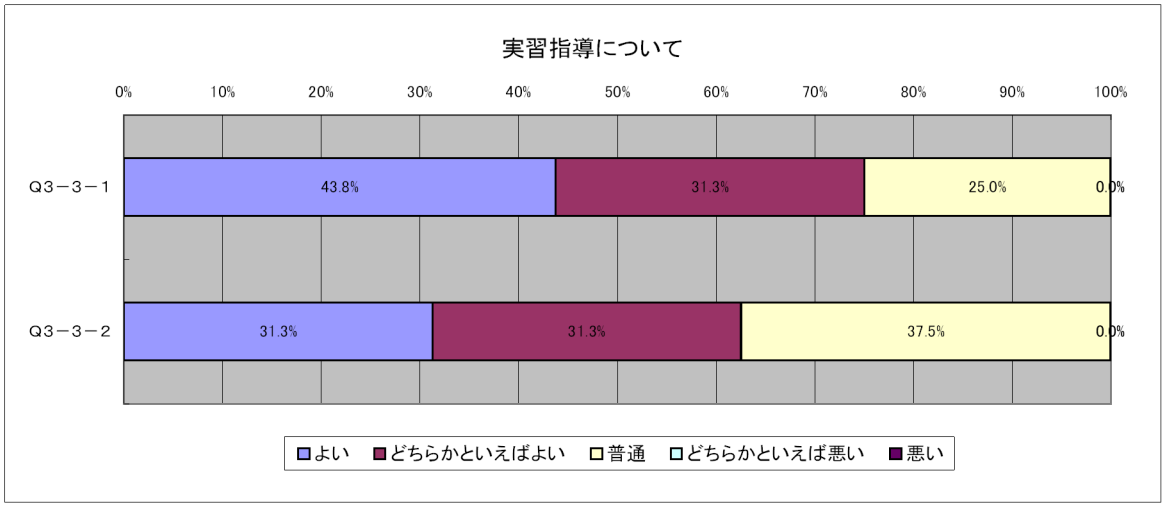
Q3－2　受講した実習・演習全体について	1 高い 2 分かり易い 3 多い		どちらかといえば…		普通		どちらかといえば…		1 低い 2 分かりにくい 3 少ない		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q3－2－1 実習・演習の内容のレベルについて	28	14.9%	68	36.2%	75	39.9%	15	8.0%	2	1.1%	188
Q3－2－2 実習・演習の内容の理解について	30	16.0%	67	35.6%	83	44.1%	7	3.7%	1	0.5%	188
Q3－2－3 必修とされる実習・演習の時間数について	9	4.8%	33	17.6%	123	65.4%	23	12.2%	0	0.0%	188



資料　009－02

鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計（平成22年3月実施：教職大学院修了生）

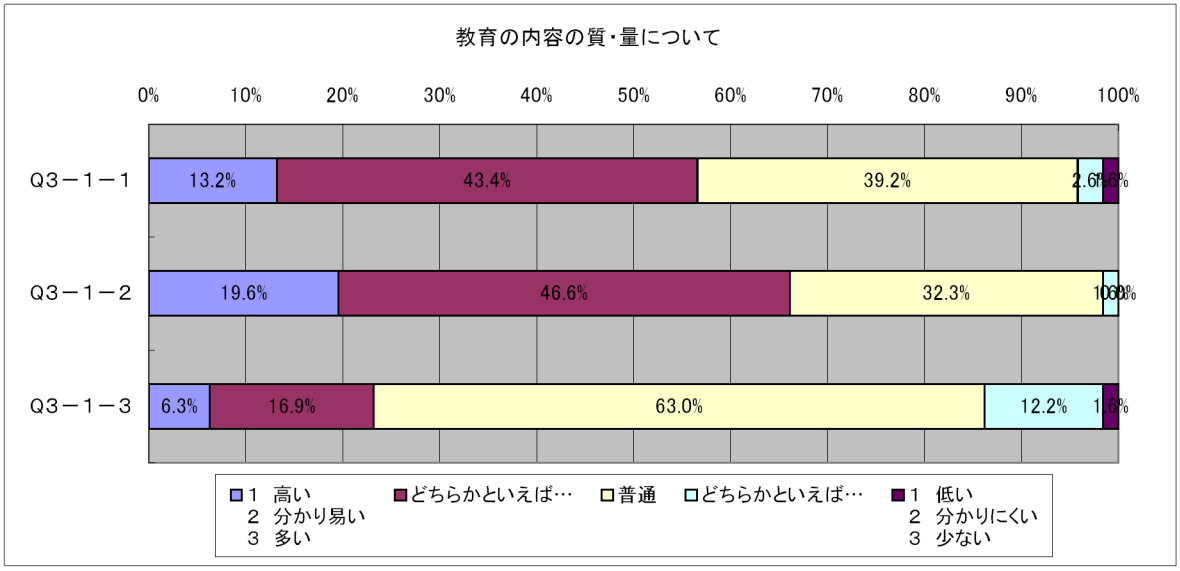
Q3－3　実習指導について	よい		どちらかといえばよい		普通		どちらかといえば悪い		悪い		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q3－3－1 大学院における指導担当教員の指導について	14	43.8%	10	31.3%	8	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	32
Q3－3－2 実習指導の満足度について	10	31.3%	10	31.3%	12	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	32



鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計 （平成22年3月実施：大学院修了生）

Q3 教育内容の質・量等について

Q3－1　受講した講義全体について	1 高い 2 分かり易い 3 多い		どちらかといえば…		普通		どちらかといえば…		1 低い 2 分かりにくい 3 少ない		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q3－1－1 講義の内容のレベルについて	25	13.2%	82	43.4%	74	39.2%	5	2.6%	3	1.6%	189
Q3－1－2 講義の内容の理解について	37	19.6%	88	46.6%	61	32.3%	3	1.6%	0	0.0%	189
Q3－1－3 必修とされる講義の時間数について	12	6.3%	32	16.9%	119	63.0%	23	12.2%	3	1.6%	189

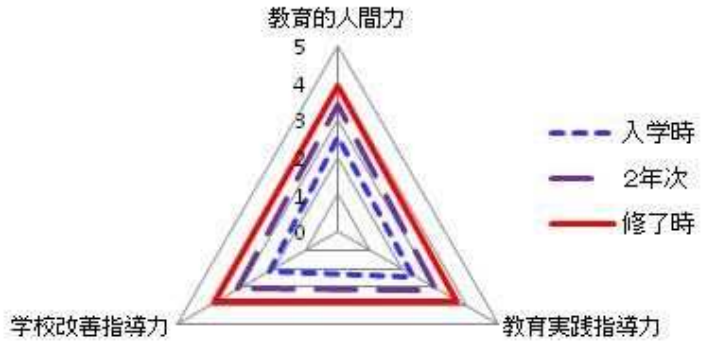


「教職大学院生（H20入学現職教員）到達状況推移」

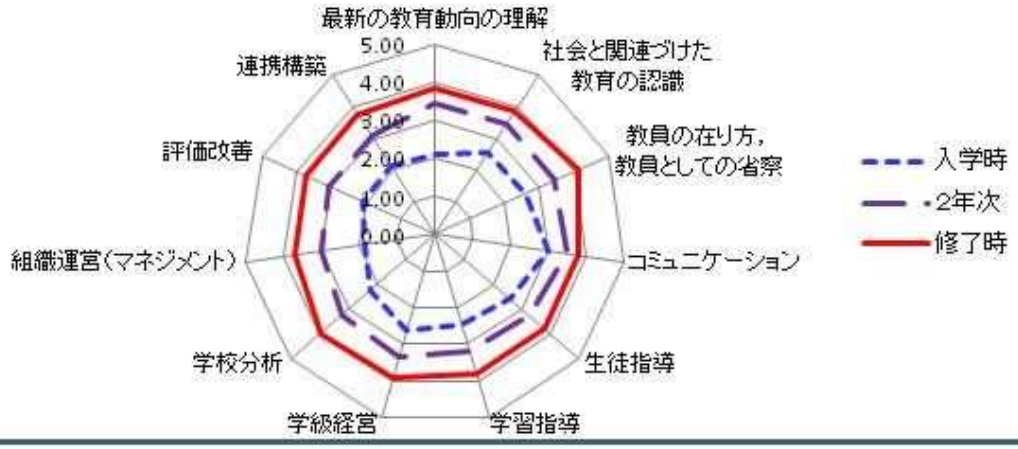
教職大学院生（H20入学現職教員）到達状況推移
院生の自己評価結果（平均値）

到達目標(領域別)

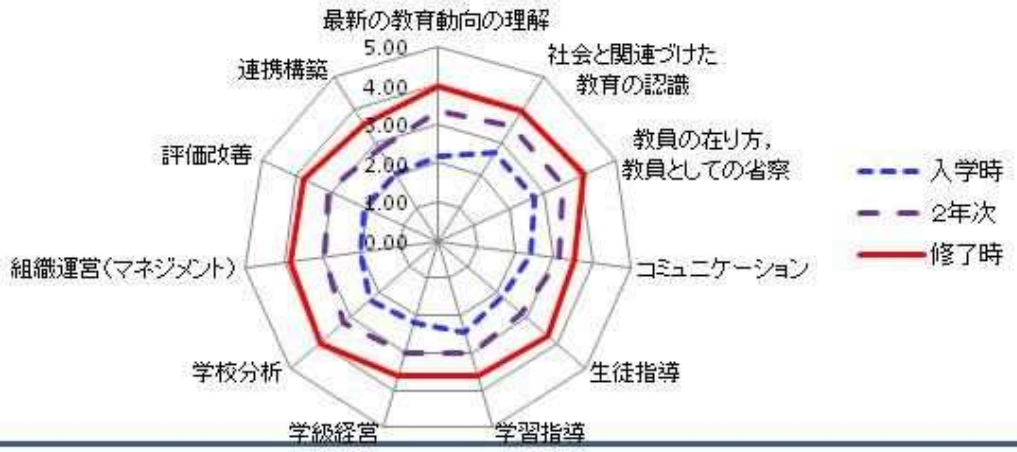
n＝３３



到達目標(観点別:理論的側面)



到達目標(観点別:実践的側面)



「自己点検・評価制度検証結果報告書（平成22年3月）」（抜粋）

観点５　評価結果の活用・反映方法

１．観点に係る状況

５－２　評価結果が適切に活用されているか

１）教育研究活動費及び給与等への反映

①評価結果の活用方法について

相対的に実施した業績評価の評価結果は，予算・財務管理委員会における経費積算処理の基礎資料として活用され，教育研究活動費の配分に供している。

また，中間報告及び総合評価結果については，給与等に反映させるための資料として活用している。

２）優秀教員の表彰について

①評価結果の活用方法について

総合評価結果及び自己点検・評価*における分野別項目（「教育」，「研究」）の評価結果を活用し，教育，研究において最も優れた教員を表彰（各１名）する「優秀教員表彰制度」を平成 19 年度に制定し，受賞者には，「ベストティーチャー」として賞状に併せて副賞（研究費として 20 万円）を授与している（貼付資料５－９参照）。

貼付資料５－９　鳴門教育大学優秀教育表彰制度

鳴門教育大学優秀教員表彰制度

（目的）
第１　鳴門教育大学の自己点検・評価（以下「自己点検・評価」という。）の評価結果等を活用し，優秀な教員を表彰するために，ベストティーチャー賞を設ける。
（表彰）
第２　学長は，当該年度において，教育部門，研究部門から各１名をベストティーチャーとして表彰することができる。
２　表彰は，賞状に併せて副賞（財源は学長裁量経費）を授与する。
３　副賞は，教育部門，研究部門の受賞者個人に研究費としてそれぞれ２０万円を授与する。
（受賞者の決定）
第３　受賞者の決定は，「自己点検・評価」の総合評価におけるＳ評価の教員を対象に，分野別 自己点検・評価項目の「教育・学生生活支援」，「研究」における自己点検・評価等に基づき学長が行う。
（公表）
第４　学長は，受賞者の教育・研究内容，授業方法等を，本学ウェブページ上に掲載し，学内外に公表する。
２　学長は，受賞者の優れた教育・研究手法を，適当な時期に公開し，教員の資質向上に資する。

（出典　鳴門教育大学優秀教員表彰制度）

Ⅱ　改善を要する事項

観点４

○　評価に関する資料のデータ化を推し進め，大学全体のデータベースやネットワークシステムに組み込むなど IT 化等に加え，評価制度自体のさらなる合理化を検討する余地もある。

「教育評価結果報告書（平成20年1月）」（抜粋）

Ⅱ　優れた点，改善を要する点等

３．教育の質の向上と改善のために配慮すべき点等

(1) 教育の質の向上と改善に結びつけるシステムを構築し，これが機能し成果をあげることが重要であることは言うまでもないが，これがゴールであるとは言えない。さらに重要なことは，教職員がそれらの意義を理解し，意欲的に取り組める環境を築くことであり，それが達成の如何に直結する。したがって，大学全体の教育活動における年度計画等の進捗状況と達成状況，指摘事項，各種委員会等での検討や対応の情報を，如何に各教職員に周知しフィードバックが行われ，それらを共有できるかが重要な課題である。それと同時に，教職員自らがそれらのプロセスに対して，どのような位置づけの項目に何時の時点で如何にかかわり貢献したかを鮮明にして意欲的に取り組めるように，より一層システムを改善し工夫することが重要である。

「学校教育学部入学者選抜状況」（平成19年度・平成22年度）

	募集人員	応募者	受験者	合格者	入学者
平成19年度	100	495	351	121	115
平成22年度	100	561	400	121	117

（出典　入試課資料：学校教育学部入学者選抜状況）

「大学院学校教育研究科入学者選抜状況」（平成21年度・平成22年度）

大学院学校教育研究科入学者選抜状況（平成21年度・平成22年度）

	募集人員			応募者			受験者			合格者			入学者		
	修士課程	専門職学位課程	計	修士課程	専門職学位課程	計	修士課程	専門職学位課程	計	修士課程	専門職学位課程	計	修士課程	専門職学位課程	計
平成21年度	250	50	300	325	53	378	305	51	356	252	50	302	183	47	230
平成22年度	250	50	300	333	50	383	326	50	376	294	49	343	212	47	259

（出典　入試課資料：大学院学校教育研究科入学者選抜状況）

「大学院学校教育研究科学生募集要項（平成21年度，平成22年度）」（抜粋）

（平成22年度大学院入学者選抜試験における出願要件の変更点）

（平成21年度）

（注）5　教科・領域教育専攻の「国際教育協力コース」のシニア教育協力専門家養成分野を志望する者は，初等中等教育における15年以上（平成21年4月1日現在）の教職経験を有することが必要になります。

（平成22年度）

（注）4　教科・領域教育専攻の「国際教育コース」の国際教育協力専門家養成分野を志望する者は，下記のいずれかの要件が必要となります。

①　15年以上の教職経験を有する者

②　JICA等国際協力事業に参加していた者及び参加希望者

「学校の危機管理（シラバス抜粋）」

【専修専門科目　教職の専門科目】

05120700　学校の危機管理
(Crisis Management of School)

担当教員・研究室番号　阪根　健二(臨床心理士養成・S210)

標準履修　学部2年

単位区分

開講時期　後期　月　2

授業形態　講義

単位数　2

備考

キーワード　学校運営の危機管理　教育指導の危機管理　生徒指導の危機管理　非常災害の危機管理　危機対応と教師の役割

連絡先・オフィスアワー
・特に設けていないが、メールで確認すれば対応したい。sakane@naruto-u.ac.jp

【授業の目的及び主旨・到達目標】
学校における児童生徒の生命に関わる危機には，いじめ，校内暴力，学級崩壊，殺傷事件，自然災害，教師の不祥事等さまざまな形で，どの学校においても起こり得る可能性が高い。学校の危機を未然に防ぎ，また克服することは，教師の重要な使命である。
〈到達目標〉学校の危機管理の現状とその対応のあり方について，具体的な事例を通して理解を深め，危機管理への対応能力と実践力の向上をめざす。

【授業計画】

週	授業の内容		
1	第１章　危機管理への対応	1	危機管理とは（オリエンテーション）
2		2	学校における危機管理とは（意義と意味）
3	第２章　学校運営の危機管理	3	安全対策①（大阪教育大学附属池田小学校の事例から）
4		4	安全対策②（大阪教育大学附属池田小学校の事例から）
5		5	学校事故と学校の責任、個人情報の保護と情報公開
6	第３章　教育活動中の危機管理	6	教育活動中の事故と学校の責任（裁判事例から）
7		7	「いじめ」や「校内暴力」等による事故と学校の責任
8		8	上記の場合での、とっさの対応①　（とっさの一言）
9		9	上記の場合での、とっさの対応②　（とっさの一言）
10		10	遠足などの校外学習での危機管理
11	第４章　教職員の危機管理	11	教職員の不祥事と学校の対応
12	第５章　非常災害の危機管理	12	地震への危機管理（阪神淡路大震災の事例から）
13		13	防災教育と防災計画（阪神淡路大震災の事例から）
14	第６章　学校危機への教師の役割	14	教師の役割と組織的な対応
15		15	学校危機管理のまとめ

【履修上の注意事項】
・講義は、最新の情報から、より実践的な内容とする。
・2年生以上の全ての学生を対象とした授業であり、教職を目指す上で重要な資質と考えている。
・演習を取り入れ、双方向的な授業とする。

【成績評価方法】
・授業への参加，レポートの提出状況，テストなどを総合的に判断して評価を行う。

【テキスト・参考文献】
・適宜，参考文献の紹介，関係資料の配付を行う。

（出典　平成22年度学校教育学部授業概要）

資料　023－02

「予防教育科学教育研究センター　活動概要」

センターの仕事は、大きく次の３つになります。

[プログラム開発]

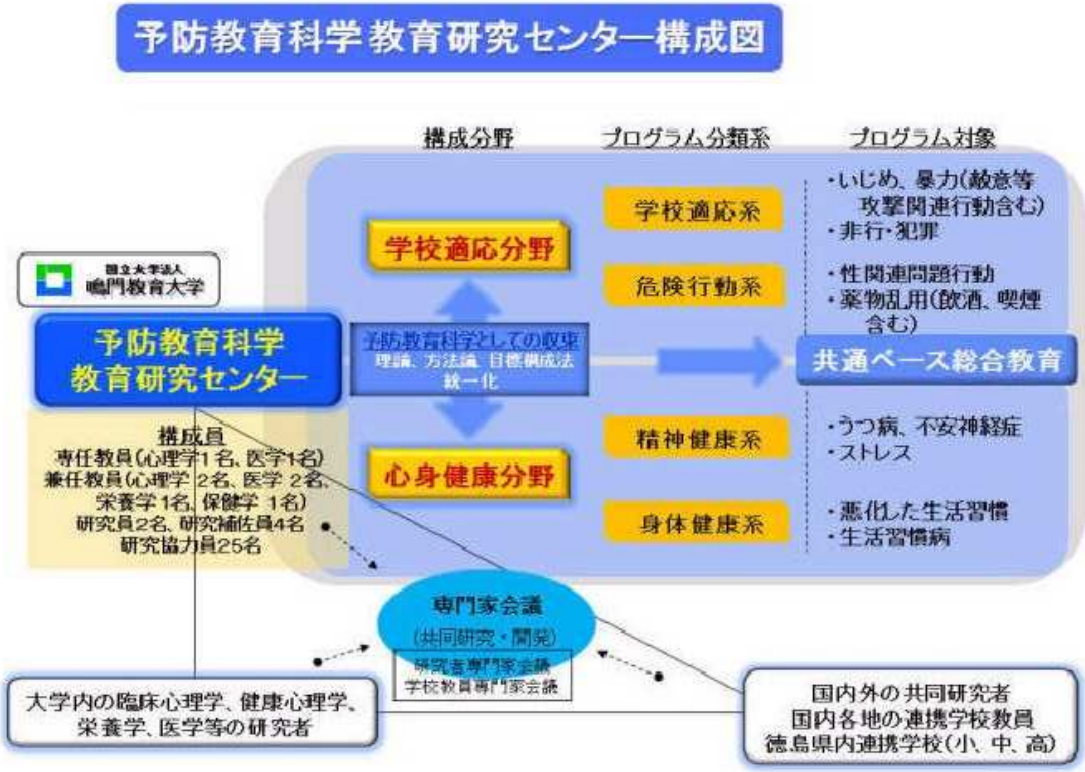
本センターにおいては、「学校適応分野」と「心身健康分野」を設定します。学校適応分野では、いじめ、不登校、校内暴力、非行等の学校における現代的課題に予防的に対処するプログラムを開発・発展させます。心身健康分野では、その罹患率の高さから我が国の最大の疾病問題である生活習慣病とうつ病を中心ターゲットとし、その予防プログラムの開発を行います。

[教員研修とプログラム実践]

開発されたプログラムを実際に学校で適用する際の実施者となる教員（一般教諭、養護教諭、栄養教諭）の研修を行います。その研修の将来像では、実施の中核となるコア・リーダーと地域や学校でのサポート・リーダーを対象に研修を実施し、コアならびにサポート・リーダーから各学校のプログラム実施予定者への指導がなされます。この研修・指導後には、各学校でプログラムを実践適用し、その効果評価を科学的に行いながらプログラムの改善と普及を推進します。

[大学・大学院教育]

鳴門教育大学においては、大学ならびに大学院学生に予防教育科学とそこでの予防教育プログラムに関する教育を平行して実施し、将来のプログラム実施者を育成する試みを同時に進行させます。



（出典　鳴門教育大学HP　http://www.naruto-u.ac.jp/center/prevention/activities.htm）

ティーム・ティーチングに関する調査に基づく分析と検証

１．調査の概要

○調査対象　：本学専任教員（助教以上）155 人
○調査方法　：本学専任教員に対し文書及びメール(添付ファイル)によりアンケート調査を実施した。
○回 答 数　：82 人（回収率 52.9%）

２．調査結果の分析

本調査の結果を、平成 17 年度に実施した「ティーム・ティーチングによる授業に関する調査」（平成 17 年 10 月 17 日～11 月 11 日実施、回答 115 人）の結果と比較して、分析する。

(1)　「ティーム・ティーチング（以下、ＴＴ）の授業を行っている」とする回答は、30 人（36.6%）であり、平成 17 年度調査の 32.2%から 4.4 ポイント増加した。

ＴＴを行っている授業科目の回答総数は 34 であった。内訳は、コア科目（初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等）10、講義・演習科目 13、実習系科目８、教育実習１、教育実習事前事後指導１、卒業研究１であり、コア科目を中心にしてＴＴが推進されている状況が示されている。なお、平成 17 年度調査でＴＴを行っていると回答された授業科目総数は 34 で、今回と同数であった。

(2)　「ＴＴを行っている場合、誰と実施していますか。(複数回答可)」という設問に対しては、「学内の教員どうし」が 25（83.3%）、「附属学校の実地指導講師と学内の教員」が７（23.3%）、「学外の実地指導講師と学内教員」が５（16.7%）、「その他」が１（3.3%）であった。ＴＴの実施体制は、主として学内教員同士が採用されており、科目の状況や特性に応じて附属学校及び学外の実地指導講師とのＴＴが取り入れられている。

(3)　「ＴＴの授業により教育効果が上がっていると考えますか」という設問についての有効回答数は 32（ＴＴを行っている教員：30、ＴＴを行っていない教員：２）であった。

このうち、「期待していた効果がある（あった）と思う」という回答が 25 人（78.1%）、「現在までのところ、期待していたほどの効果があったとは思わない」が５（15.6%）、期待していた教育効果はない（なかった）と思う」が２（6.3%）であった。約 80%の回答がＴＴによる教育効果があると回答しており、ＴＴによって一定の成果は上がっていると言える。一方で、約 20 %の回答がＴＴによる教育効果に懐疑的であるという結果が得られた。

平成 17 年度調査（有効回答数 37）では、「期待していた効果がある（あった）と思う」が 28 人（75.7%）、「現在までのところ、期待していたほどの効果があったとは思わない」が４（10.8%）、「期待していた教育効果はない（なかった）と思う」が０、「その他」が５(13.5%）であった。ＴＴの教育効果に肯定的な回答が 2.4 ポイント増加しているが、懐疑的な回答も 10.1 ポイント増加しているという結果であった。

(4)　自由記述においては、ＴＴを実施するにあたっての学外講師の重要性、担当教員同士の課題の共有や意思疎通の重要性が指摘された。一方、課題としては、打ち合わせ時間の確保、担当教員の組み合わせ、ＴＴが有効に機能する授業の再検討などが挙げられた。

３．調査結果に基づく検証

上記の結果から、本学においては、コア科目の実施などを通してＴＴを採用した授業が全般的には増加しつつあると言える。本学におけるＴＴの推進は、かなり達成された状況にあると言えよう。

また、ＴＴの実施によって、総体的には教育効果が上がっているととらえられる。一方、その教育効果に懐疑的であるとする回答も増加した。これは、ＴＴが実施が推進されたことによって、回答者の関心がＴＴによる授業の質に移行したことを示すと考えられる。

今後は、ＴＴを採用する授業数を単に増やすのではなく、ＴＴによる授業を質的に充実させ、ＴＴをより有効に機能させるための方策を検討する段階であると言えよう。ＴＴの教育効果を高めるために、ＴＴが有効に機能する授業の選定、ＴＴの実効性を高める担当教員の組み合わせや授業方法などを、各コース及び担当者において検討していくことが重要となる。

「平成22年度入学者用学修キャリアノート」（抜粋）

4年間の学びを深めるために

本学では，教師として身につけておくべき資質能力（＝教師力）として，別表に示すように，教育人間力，協働力，生徒指導力，学習指導・保育実践力の４領域を想定し，それぞれを３つの能力に区分しています。さらに，これらの資質能力の修得に向けて，いくつかの到達目標を設定しています。教師として身につけておくべき資質能力について理解し，自分自身の到達目標を設定しながら，４年間の学びを進めてください。そのためのツールが，この学修キャリアノートです。

大学では，高等学校までと比べ，より自主的・能動的な学習態度が求められます。特に，教職を目指す学生には，自己をふりかえり自己の課題を見いだす自己省察力を身につけることが求められます。子どもの心の育成に携わる職業である教師に必要な資質能力は，教職課程での科目履修によってのみ身につくものではありません。さまざまな課外活動や教育に関わるボランティア経験から学ぶことも大きなウエイトを占めています。

この学修キャリアノートは，授業省察記録欄，教員としての資質能力（＝教師力）チェックリストの順に綴じられた冊子と，ボランティア状況記録用紙が綴じられた冊子によって構成されています。授業省察記録欄には，各授業を聴講して気づいたことや考えたことを記入します。教員としての資質能力（＝教師力）チェックリストには，４領域12区分の資質能力に向けての到達目標が記載されていますので，定期的に自己をふりかえり，それぞれの目標に対する自己の状況と課題を記入します。記入する内容は学年により異なり，各学年の最初のページに記載されています。ボランティア状況記録用紙には，教職に関わるボランティア経験の内容と学んだことを記入します。

この学修キャリアノートをとおした取り組みは，自己の学修の成果や課題を確認する手助けになります。そして，教職に就くために必要かつ有用な知識や技能を身につけるのに役立ちます。自己を省察し学びを深めるために，学修キャリアノートを活用しましょう。

オフィスアワーに関する調査に基づく分析と検証（抜粋）

２．調査結果の分析

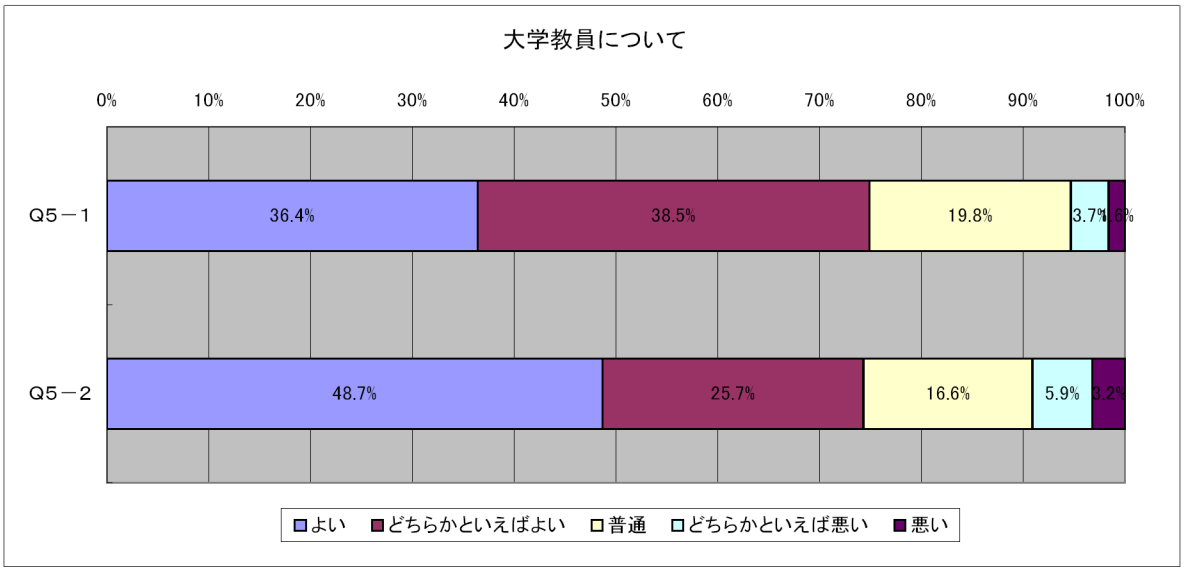
オフィスアワーの効果に関する教員の意見：履修又は修学指導等に効果的である（と思われる）（60 人(60.79%)），履修又は修学指導等に効果を感じられない（11 人（11.14%））。効果があると思っている教員が半数以上を占めていることは良いことであるが，11.14%の回答者が効果を感じていないのはどうしてであろうか。否定的な意見を読んでみると，すべて，設定時間以外にも随時，学生も来るし，相談にも乗っているので，時間帯を設定することに否定的なだけで，相談制度・体制自体に否定的であるわけではないことが分かった。アメリカの大学で行われている制度を導入しようとしたときによく起こることであるが，その制度の名称の英語名をカタカナにしただけのものを使った場合，制度の趣旨が理解されずに文字通りの意味と誤解されてしまう危険性がある。この「オフィスアワー」の場合も，「アワー」（時間）の部分が時間帯，時間を設定するという部分だけに注目されたために，上のような否定的な意見が出てきたものと思われる。上で述べたように，オフィスアワーは，あくまでも，学生に対する相談制度・体制が主体で，設定時間帯は，あくまで必ず待機していなくてはならない時間帯で，その他の時間に相談に乗らなくても良いというわけではないということを教員に周知することが必要である。

資料　027－02

鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計 （平成22年3月実施：大学院修了生）

Q5 大学教員について

		よい		どちらかといえばよい		普通		どちらかといえば悪い		悪い		有効回答件数
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q5－1	大学教員の教授・研究・指導力について	68	36.4%	72	38.5%	37	19.8%	7	3.7%	3	1.6%	187
Q5－2	大学教員の人間的・教育的愛情について（親身になってくれるか、勉学等に関して愛情をもって時には厳しく、時にはやさしく接したか等）	91	48.7%	48	25.7%	31	16.6%	11	5.9%	6	3.2%	187

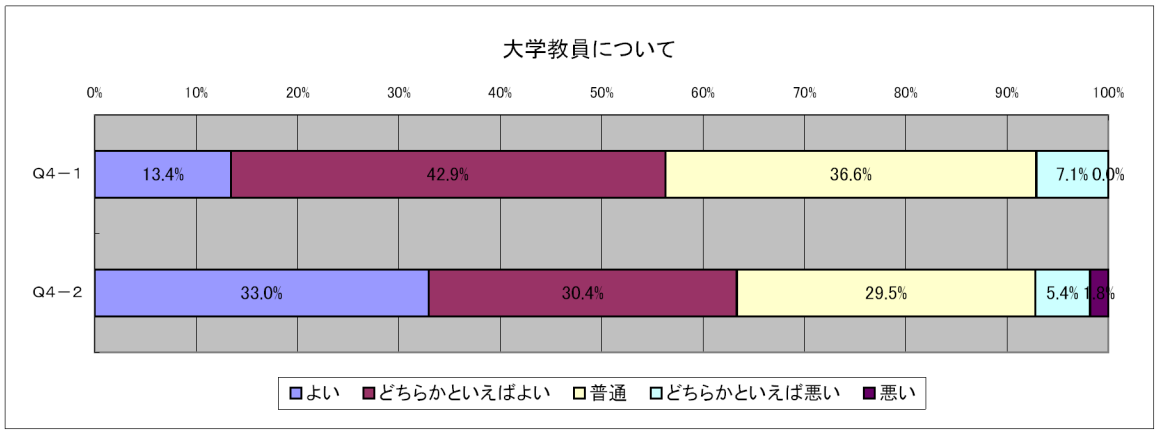


資料　027－03

鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計 （平成22年3月実施：学部卒業生）

Q4 大学教員について

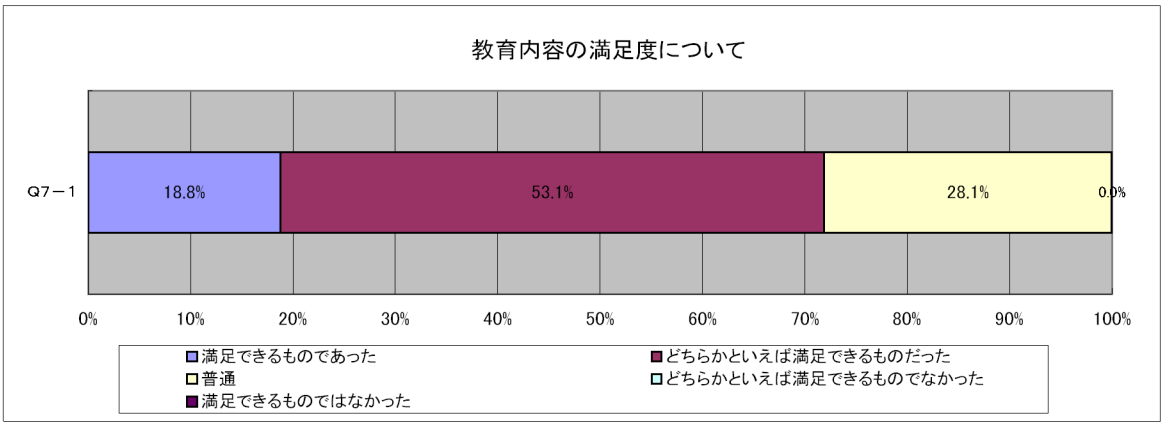
		よい		どちらかといえばよい		普通		どちらかといえば悪い		悪い		有効回答件数
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q4－1	大学教員の教授・指導力について	15	13.4%	48	42.9%	41	36.6%	8	7.1%	0	0.0%	112
Q4－2	大学教員の人間的・教育的愛情について（親身になってくれるか、勉学等に関して愛情をもって時には厳しく、時にはやさしく接したか等）	37	33.0%	34	30.4%	33	29.5%	6	5.4%	2	1.8%	112



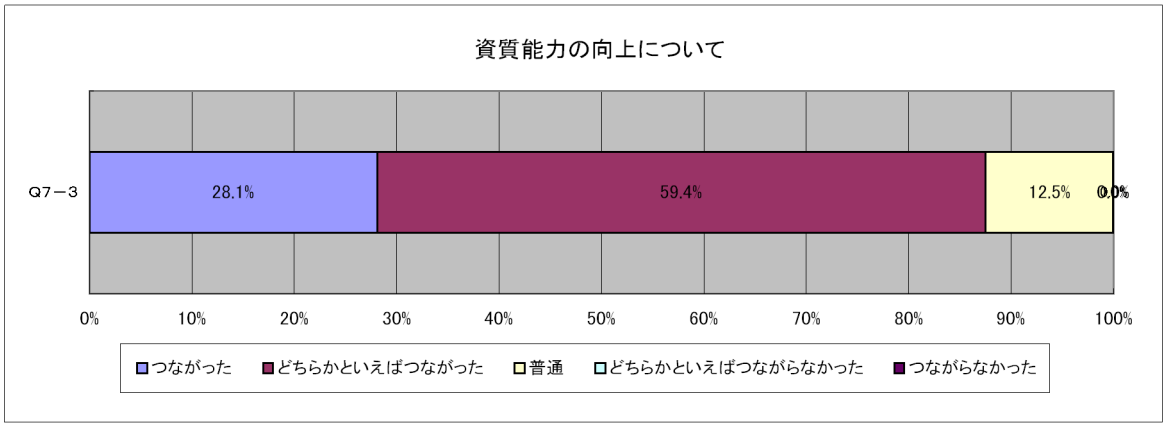
鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計（平成22年3月実施：教職大学院修了生）

Q7 本学で学んだことの成果について

	満足できるものであった		どちらかといえば満足できるものだった		普通		どちらかといえば満足できるものでなかった		満足できるものではなかった		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q7－1　教育内容の満足度について	6	18.8%	17	53.1%	9	28.1%	0	0.0%	0	0.0%	32



	つながった		どちらかといえばつながった		普通		どちらかといえばつながらなかった		つながらなかった		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q7－3　2年間の学修を通して，教員としての資質能力の向上につながったか	9	28.1%	19	59.4%	4	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	32



資料　050－01

「センター再編構想図」

センター再編構想図

【現行】

地域連携センター
- 地域連携分野
- 実地教育分野

実技教育研究指導センター
- 音楽教育分野
- 美術教育分野
- 体育教育分野
- 言語教育分野

高度情報研究教育センター
- 情報システム分野
- 情報コミュニケーション分野
- 情報教育分野

小学校英語教育センター
- カリキュラム開発分野
- 研修・支援プログラム開発分野

教員教育国際協力センター
- 理数科教育協力研究分野
- ICT 教育協力研究分野
- シニア教育人材養成研究分野
- 国際教育開発研究分野

予防教育科学教育研究センター
- 学校適応分野
- 心身健康分野

心身健康研究教育センター
- 心身医療・保健管理分野
- 心理教育相談分野

【再編後】

［教育の領域］

教職キャリア支援センター
- 実地教育分野
- **実技能力支援分野**
- **長期履修学生支援分野**

［先導的・先端的実践研究及び教育の領域］

予防教育科学教育研究センター
- 学校適応分野
- 心身健康分野

小学校英語教育センター
- **小学校英語教育カリキュラム開発分野**
- **小学校英語教育研修・支援プログラム開発分野**

［社会・国際連携及び貢献の領域］

地域連携センター
- **教育連携コーディネイト分野**
- **教育情報コミュニケーション分野**

教員教育国際協力センター
- 理数科教育協力研究分野
- ICT 教育協力研究分野
- 国際教育開発研究分野

［教育研究の環境整備の領域］

情報基盤センター
- 情報システム分野
- 情報教育分野

心身健康センター
- **保健管理分野**
- **心理・教育相談分野**

（出典　センター組織再編検討結果報告書）

「学校教育研究科の教育組織の改編」

図３　学校教育研究科の教育組織の改組

平成１９年度

学校教育専攻	１４５
人間形成コース	（１５）
学校改善コース	（２０）
授業開発コース	（１５）
生徒指導コース	（１５）
臨床心理士養成コース	（４５）
幼年発達支援コース	（１５）
総合学習開発コース	（２０）
特別支援教育専攻	２０
教科・領域教育専攻	１３５
言語系コース（国語）	３５
言語系コース（英語）	
社会系コース	２０
自然系コース（数学）	２５
自然系コース（理科）	
芸術系コース（音楽）	３０
芸術系コース（美術）	
生活・健康系コース（保健体育）	２５
生活・健康系コース（技術・工業・情報）	
生活・健康系コース（家庭）	

平成２０年度

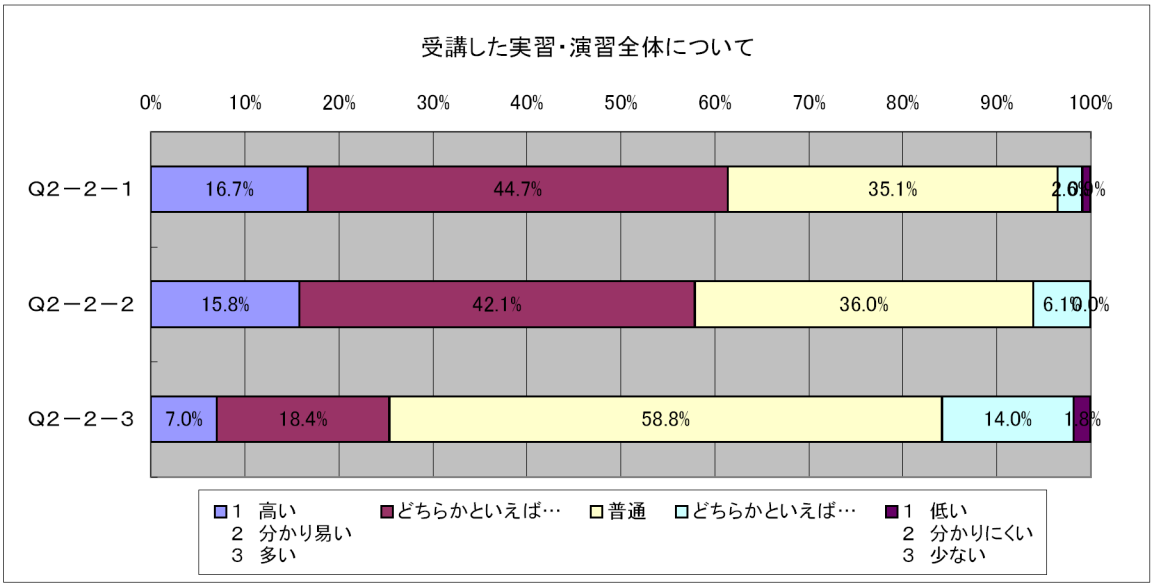
☆ 高度学校教育実践専攻	５０
☆ 学校・学級経営コース	（１０）
☆ 学校臨床実践コース	（１５）
☆ 授業実践・カリキュラム開発コース	（１５）
☆ 教員養成特別コース	（１０）
☆ 人間教育専攻	９０
人間形成コース	（１５）
幼年発達支援コース	（１５）
現代教育課題総合コース	（１５）
臨床心理士養成コース	（４５）
特別支援教育専攻	２０
教科・領域教育専攻	１４０
言語系コース（国語）	３５
言語系コース（英語）	
社会系コース	２０
自然系コース（数学）	２０
自然系コース（理科）	
芸術系コース（音楽）	３０
芸術系コース（美術）	
生活・健康系コース（保健体育）	２５
生活・健康系コース（技術・工業・情報）	
生活・健康系コース（家庭）	
☆ 国際教育協力コース	１０

注）☆印は新設の専攻・コースを示す。

（出典　鳴門教育大学大学院学校教育研究科改組の基本方針と概要）

鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計 （平成22年3月実施：学部卒業生）

Q2－2　受講した実習・演習全体について	1 高い 2 分かり易い 3 多い		どちらかといえば…		普通		どちらかといえば…		1 低い 2 分かりにくい 3 少ない		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q2－2－1 実習・演習の内容のレベルについて	19	16.7%	51	44.7%	40	35.1%	3	2.6%	1	0.9%	114
Q2－2－2 実習・演習の内容の理解について	18	15.8%	48	42.1%	41	36.0%	7	6.1%	0	0.0%	114
Q2－2－3 必修とされる実習・演習の時間数について	8	7.0%	21	18.4%	67	58.8%	16	14.0%	2	1.8%	114



「徳島県教育委員会と国立大学法人鳴門教育大学の人事交流に関する協定書」

徳島県教育委員会と国立大学法人鳴門教育大学の人事交流に関する協定書

徳島県教育委員会（以下「甲」という。）と国立大学法人鳴門教育大学（以下「乙」という。）は、教員の人事交流について、以下のとおり実施することを協定する。

（目的）

第１条　甲と乙との間で、学校教育における実務経験を有し、かつ、高度の教育実践能力を有する教員の人事交流を実施することにより、広く教育実践力のある教員の育成を図ることを目的とする。

（人事交流の協議）

第２条　甲及び乙は、人事交流を実施する前年度に、当該人事交流について協議するものとする。

（人事交流の期間）

第３条　人事交流の期間は、３年とし、原則として４月１日付けで交流を行う。ただし、甲乙の協議の上、人事交流の期間を延長又は短縮することができる。

（人事交流の内容）

第４条　乙は、甲の推薦する複数の教員のうちから１人を採用し、乙において一定期間勤務の後、甲は、当該教員を再び甲の教員に復帰させるものとする。

２　前項の採用に当たっては、当該教員は甲の教員の職を免ぜられ、引き続き乙の教員として採用する。

３　第１項の復帰に当たっては、当該教員は乙の教員の職を免ぜられ、引き続き甲の教員として採用する。

（昇任選考審査）

第５条　甲は、前条の規定により乙に採用された教員（以下「交流教員」という。）のうち、甲が行う昇任選考審査の選考条件を満たす者に対し、受審資格を与えるものとする。

（研修）

第６条　甲は、交流教員のうち、甲が行う研修の受講資格を有し、かつ、乙の推薦がある者に対し、受講の機会を与えるものとする。

２　乙は、交流教員の義務研修について、受講の機会を保障するものとする。

（分限及び懲戒）

第７条　乙は、交流教員に対し分限又は懲戒の処分を行おうとするときは、甲と協議の上、これを行うものとする。

（その他）

第８条　この協定書の締結を証するため、本書２通を作成し、甲乙記名押印の上各１通を保有する。

２　この協定に関し疑義が生じたとき、又はこの協定に定めのない事項については、甲乙の協議の上決定する。

平成１７年２月１７日

甲　徳島県教育委員会教育長

松村通治

乙　国立大学法人鳴門教育大学長

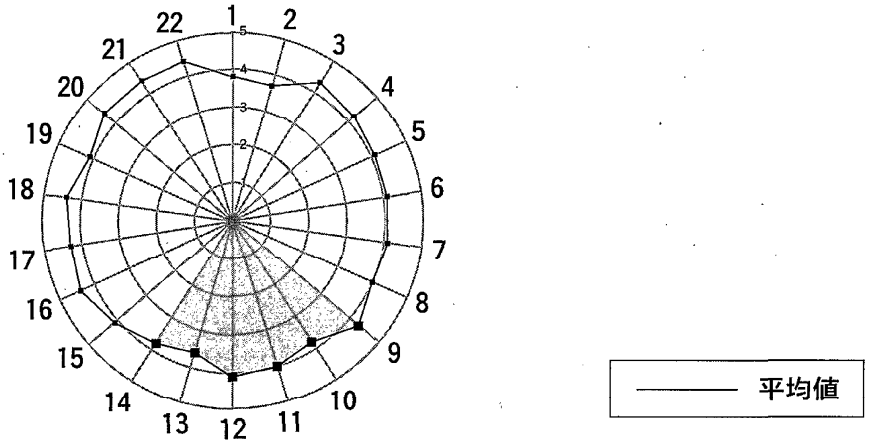
高橋哲夫

「平成１９年度学生による授業評価実施報告書（学校教育学部）」（抜粋）

授業科目名　初等中等教科教育実践Ⅰ（国語）
評価実施日　平成20年２月13日

回答者数　16名

質問項目			評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（科目別）
1　授業概要について	(1)	目標・授業計画・内容は，明確に示されていた。	4	6	5	1	0	0	3.8
	(2)	成績評価の方法は，明確に示されていた。	3	6	6	1	0	0	3.7
2　授業の内容等について	(3)	授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	10	1	0	0	0	4.3
	(4)	「ふれあい実習」での体験をふまえた，幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	5	9	2	0	0	0	4.2
	(5)	学習指導要領をふまえ，教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	7	4	0	0	0	4.1
	(6)	授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	5	8	3	0	0	0	4.1
	(7)	授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	10	2	0	0	0	4.1
	(8)	教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき，授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	5	6	5	0	0	0	4.0
3　あなたの授業への取り組みについて	(9)	授業によく出席した。	7	8	0	1	0	0	4.3
	(10)	授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	4	5	7	0	0	0	3.8
	(11)	積極的に実験，実習，実技等に取り組んだ。	5	6	5	0	0	0	4.0
	(12)	教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	7	4	0	0	0	4.1
	(13)	分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	5	6	2	0	0	3.6
	(14)	授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	4	6	5	1	0	0	3.8
4　教員の授業の進め方について	(15)	学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	6	4	0	0	0	4.1
	(16)	熱心に指導した。	8	7	1	0	0	0	4.4
	(17)	授業内容を分かりやすく伝えた。	6	8	2	0	0	0	4.3
	(18)	教科書や配布資料等の教材は，内容を理解する上で適切だった。	7	8	1	0	0	0	4.4
	(19)	教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	5	7	3	0	0	0	4.1
	(20)	教員の声は，聞き取りやすかった。	8	7	1	0	0	0	4.4
	(21)	与えられた課題のレベルや分量は，適切だった。	9	5	2	0	0	0	4.4
5　授業に対する満足度	(22)	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	8	6	2	0	0	0	4.4



教員のコメント

初等中等教科教育実践Ⅰも４年目を迎え，軌道に乗ったと言える。しかし，こちらが慣れてきているためか，学生に対する授業計画や講義内容に対する説明が不足したと考えられる。

「(1)目標・授業計画・内容は，明確に示されていた。」が平均値 3.8 と「成績評価の方法は，明確に示されていた。」が平均値 3.7 と比較的低い数値になった。本年度の反省点であり，来年度改善したい。

また「(10)授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。」が平均値 3.8,「(13)分からないことや疑問に思ったことは調べた。」が平均値 3.6,「(14)授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。」が平均値 3.8 であり，学生自身の自学的態度や研究的態度を引き出し得ていないことも課題である。以前から講義内容に関する課題は提示しているが，その達成率が悪いということであろう。課題の達成状況のチェックを厳密にする必要がある。

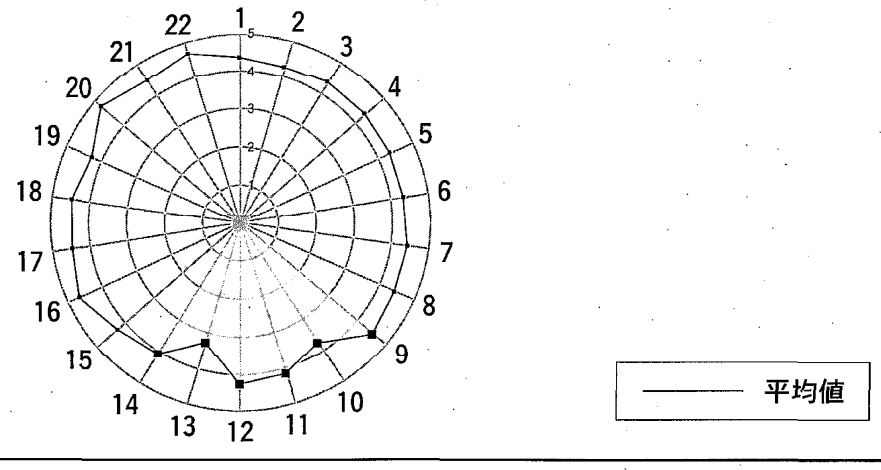
全体としては，教員の熱意を好意的に評価しつつ，講義には積極的に参加したことが分かる。「(22)この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。」の平均値が 4.4 であった。この数値の維持・向上に努めたい。

「平成２０年度学生による授業評価実施報告書（学校教育学部）」（抜粋）

授業科目名　初等中等教科教育実践Ⅰ（コース　国語）
評価実施日　平成21年２月18日

回答者数　31名

質問項目			評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（科目別）
1　授業概要について	(1)	目標・授業計画・内容は，明確に示されていた。	15	14	2	0	0	0	4.4
	(2)	成績評価の方法は，明確に示されていた。	16	8	7	0	0	0	4.3
2　授業の内容等について	(3)	授業概要のねらいにそった授業内容であった。	17	9	5	0	0	0	4.4
	(4)	「ふれあい実習」での体験をふまえた，幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	19	5	7	0	0	0	4.4
	(5)	学習指導要領をふまえ，教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	15	13	3	0	0	0	4.4
	(6)	授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	16	11	4	0	0	0	4.4
	(7)	授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	18	11	2	0	0	0	4.5
	(8)	教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき，授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	18	9	4	0	0	0	4.5
3　あなたの授業への取り組みについて	(9)	授業によく出席した。	21	7	3	0	0	0	4.6
	(10)	授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	9	11	8	1	2	0	3.8
	(11)	積極的に実験，実習，実技等に取り組んだ。	14	11	5	1	0	0	4.2
	(12)	教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	14	13	4	0	0	0	4.3
	(13)	分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	6	15	2	3	0	3.3
	(14)	授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	11	14	5	1	0	0	4.1
4　教員の授業の進め方について	(15)	学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	14	12	5	0	0	0	4.3
	(16)	熱心に指導した。	23	7	1	0	0	0	4.7
	(17)	授業内容を分かりやすく伝えた。	18	12	1	0	0	0	4.5
	(18)	教科書や配布資料等の教材は，内容を理解する上で適切だった。	18	11	2	0	0	0	4.5
	(19)	教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	14	11	6	0	0	0	4.3
	(20)	教員の声は，聞き取りやすかった。	26	4	1	0	0	0	4.8
	(21)	与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	19	10	2	0	0	0	4.5
5　授業に対する満足度	(22)	この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	23	7	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

初等中等教科教育実践Ⅰ（国語）も，４年目となり授業の内容や進め方は，かなり安定してきた。昨年までと同様，授業評価からは，授業に毎回熱心に出席し（(9)平均値:4.6），教員側の熱意を評価しつつ（(16)平均値：4.7），全体として満足している（(22)平均値：4.7）ことがわかる。特に，項目分析(16)「熱心に指導した。」については，５の評価が74%，４の評価が23%で，３の評価は３％で高評価だった。今回も教員が熱心に指導すれば，学生はそれを受けとめ評価してくれることが確かめられた。

しかし，「３　あなたの授業への取り組みについて」は，「(13)分からないことや疑問に思ったことは調べた。」の平均値が3.3と群を抜いて低い数値を示した。自学自習の態度を形成する工夫は，今回も課題として残った。

「６　あなたからの提言」では「絵本のすばらしさに気付いた。」や「たくさんの絵本にふれることができた」など，「絵本とその読み聞かせ」に関する授業内容を「よかった」と評価する記述が多く見られた。また，「いい授業の実践事例を提示してもらえたので指導法などわかりやすかった。」や「国語の「読み方」についてより専門的な知識が得られた。」など国語科授業実践に関する授業内容を「よかった」と評価する記述も見られた。今後も，教科教育実践の主旨を生かし，教科内容，指導方法と関わらせながら，絵本や教材の音読・読み聞かせの基礎的パフォーマンスを鍛える授業内容を展開していきたい。

資料　066－01

「鳴門教育大学入学料，授業料及び寄宿料の免除等に関する規程」（抜粋）

第１４条　次の各号の一に該当する場合は，授業料を免除することができる。なお，第２号による免除は，特別免除とする。

(2)　教育公務員特例法（昭和２４年法律第１号）第２６条の規定による大学院修学休業制度を利用して修学する者

資料　066－02

「教職大学院生（現職教員）支援基金について（お知らせ）」

本学では，教職大学院生（現職教員）の勤務校実習に係る往復旅費等の負担軽減に資するため，平成２１年４月から支援金貸与の制度を設けました。

制度の概要

① 制度の名称：鳴門教育大学教職大学院生（現職教員）支援基金

② 貸与限度額：在学中に２０万円まで

③ 手　続　等：申請書及び借用書を教職大学院コラボレーションオフィスに提出願います。なお，申請書には，実習責任教員の確認印が必要となります。

④ 貸 与 方 法：銀行振込（申請から概ね１０日後）

⑤ 返 還 方 法：修了等の月の翌月から１年以内に一括又は分割で返還願います。

⑥ そ　の　他：貸与金は無利子です。

本制度に関するお問い合わせは，
☆教務部学生課学生生活支援チーム（本部棟１階）
TEL　０８８－６８７－６１１９
E-mail　kg.gakusei@jim.naruto-u.ac.jp
又は
☆教務部教務課教育支援チーム
教職大学院コラボレーションオフィス担当
（地域連携センター２階）
TEL　０８８－６８７－６５９８
E-mail　kk.collabo@jim.naruto-u.ac.jp

（出典　教務課：新入生オリエンテーション用資料）

「教育支援講師・アドバイザー等派遣事業テーマ一覧」

	内　　容
1	その他（10年経験者に求められる「協働力」）
2	指導方法や課題解決の助言（きょうだい支援のあり方について）
3	指導方法や課題解決の助言，専門的活動（障害児理解と移行支援）
4	その他（乳幼児期の子育てについて）
5	専門的活動（地層に関する野外学習）
6	校内研修会（学校力を高める学校評価の進め方）
7	校内研修会，授業実践（総合的な学習における音楽指導について，歌唱指導）
8	校内研修会（研究授業「２年生　ゲーム（鬼遊び）に対する指導・助言」）
9	その他（藍染めＴシャツ作成の実技指導）
10	授業実践，指導方法や課題解決の助言（歌唱指導）
11	校内研修会（人権教育研修）
12	その他（平成21年度特別支援教育学会高等部研究発表について）
13	校内研修会（音楽授業の構想と実践）
14	その他（絵本の仕掛けとその読み聞かせの効果）
15	指導方法や課題解決の助言（特別な教育的支援を要する子どもの支援）
16	校内研修会（研究授業３年「算数」，授業研究会）
17	校内研修会，授業実践，指導方法や課題解決の助言（総合的な学習，歌唱指導）
18	授業実践（「有機電子論へのアプローチ」）
19	その他（絵本の仕掛けとその読み聞かせの効果）
20	専門的活動（歌唱教材の演奏及びその歌い方の指導）
21	その他（絵本の読み聞かせの大切さについて）
22	指導方法や課題解決の助言（連携機関をつなぐ資料のあり方）
23	校内研修会，指導方法や課題解決の助言（事例研究会ほか）
24	校内研修会（コンプライアンス研修）
25	その他（教員養成・教育学全般について）
26	校内研修会（特別支援の必要な子どもへの支援の仕方について）
27	授業実践・指導方法や課題解決の助言（絵本の読み聞かせの教育的効果）
28	その他（豊かな人間性。社会性の育成をめざす生徒指導 - 児童理解を基盤とした規範意識の育成 - ）
29	授業実践（歌唱指導）
30	指導方法や課題解決の助言（主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造）
31	その他（地球・月・太陽の不思議）
32	その他（ことばとことばの力）
33	指導方法や課題解決の助言（小学校英語活動のあり方）
34	教科指導（絵本の仕掛けとその読み聞かせの効果）
35	その他（おもしろ科学実験体験）
36	その他（身近な科学を探求する実験）
37	指導方法や課題解決の助言（特別な教育的支援を必要とする子どもへの学校ぐるみの支援（特別支援学級の担任としての配慮・継続的支援について等の計画と記録について））
38	校内研修会（保護者対応「とっさの一言」）
39	専門的活動（統計教育について）
40	指導方法や課題解決の助言（小学校図画工作科　造形遊びについて）
41	指導方法や課題解決の助言（「校内委員会の運営について」の実践発表の指導助言及び講演）
42	校内研修（「第51回徳島県小学校体育科教育研究大会」の事前の指導案検討会）
43	その他（板野郡中学校技術家庭科（技術分野）研修会）
44	校内研修会（特別支援教育を要する子どもへの学校ぐるみの支援について，相談ファイルについて，校内委員会の在り方について）
45	指導方法や課題解決の助言（障害児理解と移行支援）
46	授業実践（総合的な学習の時間と音楽科の学習とのかかわり）
47	その他（連携機関をつなぐ資料のあり方：子どもへの適切な支援のために）
48	その他（「クジャクのオスは，なぜ派手なのか？ - オスとメスにおけるさまざまな形質の進化 - 」）
49	授業実践（英語指導に関する相談・支援）
50	その他（教育学部で学ぶこと・教師の仕事とは）
51	校内研修会（小学校英語教育のデモンストレーション）
52	その他（第10回　全国中学生創造ものづくり教育フェア）
53	授業実践（身のまわりの物質のなりたちと変化）
54	その他（オーケストラ部の合奏指導並びに教員の指揮指導）
55	授業実践（理科のうち生物分野の教材や学習指導について）

56	授業実践（歌唱指導）
57	校内研修会（総合的な学習における音楽指導について・歌唱指導）
58	指導方法や課題解決の助言（音楽授業の構想と実践）
59	指導方法や課題解決の助言（発声基礎及び歌唱表現指導について）
60	授業実践（絵本の仕掛けと読み聞かせの効果）
61	指導方法や課題解決の助言（北島町特別支援教育研究会，事例研究会）
62	指導方法や課題解決の助言（英語教育カリキュラム・指導法・教材に関する相談・支援及び共同開発）
63	その他（発声の基本と歌唱表現活動）
64	指導方法や課題解決の助言（障害児理解と移行支援）
65	授業実践（地学，天体分野の授業研究）
66	校内研修会（特別な教育支援を要する子どもへの学校ぐるみの支援）
67	校内研修会（総合的な学習における音楽指導について・歌唱指導）
68	授業実践（身のまわりの物質のなりたちと変化）
69	専門的活動（絵本の読み聞かせの教育的効果）
70	指導方法や課題解決の助言（平成22年度中国四国音楽教育研究大会にむけての研究会　音楽「創作活動の指導方法」）
71	授業実践（地学を中心とした野外学習のあり方とその指導）
72	校内研修会（教職員の不祥事発生のメカニズムと対応策）
73	その他（英語教育改善事業　研修会事前打ち合わせ）
74	校内研修会（音楽科の学習指導の方法）
75	指導方法や課題解決の助言（生活習慣病予防のための教育検討会）
76	その他（脳科学と教育）
77	授業実践（歌唱指導）
78	その他（第45回中国四国理科教育研究大会徳島（鳴門）大会）
79	その他（第45回中国四国理科教育研究大会徳島（鳴門）大会）
80	その他（第45回中国四国理科教育研究大会徳島（鳴門）大会）
81	授業実践（21世紀の学力としての生きる力と国際協力）
82	校内研修会（数学的活動によって、生徒の学習意欲がいかに高まったか）
83	校内研修会（コンプライアンス研修）
84	校内研修会（小学校英語教育のあり方）
85	校内研修会（小学校英語教育のあり方）
86	指導方法や課題解決の助言（英語教育カリキュラム・指導法・教材に関する相談・支援及び共同開発）
87	校内研修会（総合的な学習における音楽指導について・歌唱指導）
88	校内研修会（英語教育改善事業　研修会［これからの小学校英語の目指すもの］）
89	指導方法や課題解決の助言（生活習慣病予防のための教育検討会　第２回）
90	指導方法や課題解決の助言（楽しい合唱教室）
91	その他（生活習慣病予防のための家庭教育学級会での進行サポート）
92	その他(児童理解について，家庭教育を中心に)
93	校内研修会，指導方法や課題解決の助言（特別な教育的支援を要する子どもへの学校ぐるみの支援）
94	指導方法や課題解決の助言（基本的な生活習慣と社会性を身につけるための支援方法について）
95	その他（県中学校社会科授業研究会の指導助言者として）
96	その他（講演会　特色ある学校づくり）
97	指導方法や課題解決の助言，専門的活動（障害児理解と移行支援）
98	その他（小・中・高における特別支援教育の取り組み）
99	専門的活動（学校評価システムの充実に向けて）
100	授業実践（日本社会の歴史）
101	校内研修会（絵本の読み聞かせの教育的効果）
102	授業実践，指導方法や課題解決の助言（ＮＩＥ実践及び指導助言）
103	校内研修会，授業実践（絵本の読み聞かせの教育的効果）
104	校内研修会，指導方法や課題解決の助言（発達障害児の理解と学校における対応）
105	授業実践，指導方法や課題解決の助言（ＮＩＥ実践及び指導助言）
106	校内研修会（学校評価（アンケート）結果を学校改善に生かす方策）
107	指導方法や課題解決の助言（徳島県中学校社会科授業研究会の指導助言）
108	その他（生活習慣形成についての内容）
109	その他（子どもの心について）
110	校内研修会（「ことばの発達」について）
111	その他（鳴門教育大学及び生活・健康系コースの特徴について）
112	その他（スポーツ科学に関連したテーマ）
113	その他（美術に関連したテーマ）
114	その他（音楽に関連したテーマ）
115	指導方法や課題解決の助言，専門的活動（障害児理解と移行支援）

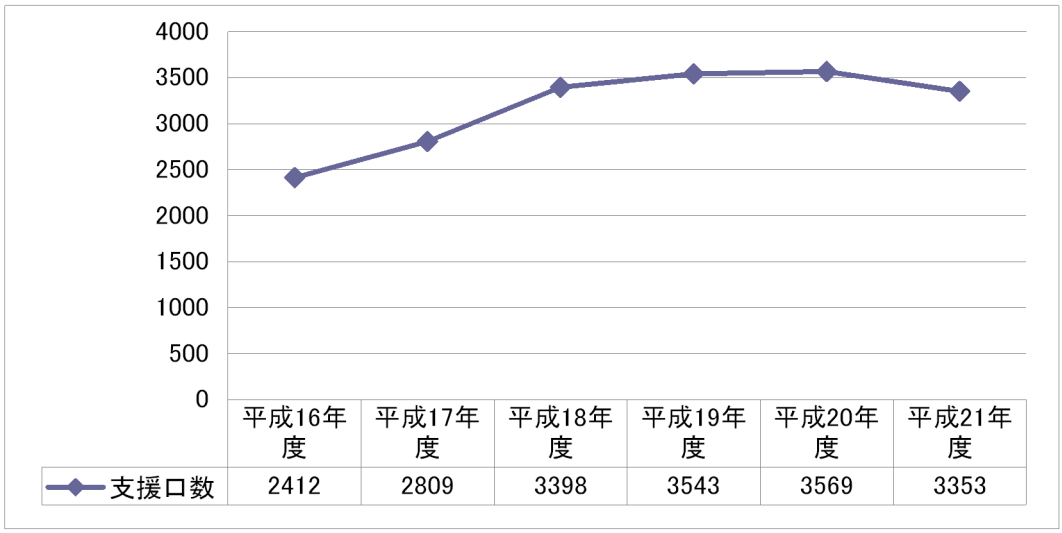
「鳴門教育大学国際交流基金奨学金支給実績」

	鳴門教育大学私費外国人留学生奨学金					京仁教育大学校交流学生奨学金					鳴門教育大学留学支援金				
	対象者数（人）	応募者数（人）	支給人数（人）	1人当たり支給額（円）	支給額計（円）	対象者数（人）	応募者数（人）	支給人数（人）	1人当たり支給額（円）	支給額計（円）	派遣（人）	派遣支給額（円）	受入れ（人）	受入れ支給額（円）	支給額計（円）
2001(H13)	3	3	3	60,000	180,000										
2002(H14)	1	1	1	60,000	60,000										
2003(H15)	2	2	2	60,000	120,000	2	2	2	60,000	120,000					
2004(H16)	15	13	8	50,000	400,000	1	1	1	120,000	120,000	1	150,000			
2005(H17)	13	8	6	60,000	360,000	1	1	1	120,000	120,000	3	230,000			
2006(H18)	4	4	4	60,000	240,000	1	1	1	120,000	120,000	2	60,000			
2007(H19)	4	4	4	60,000	240,000						1	50,000	3	195,000	245,000
2008(H20)	6	6	6	60,000	360,000						3	160,000	6	405,000	565,000
2009(H21)	8	8	8	60,000	480,000						3	160,000	2	90,000	250,000
					0										0
					0										0
					0										0
					0										0

（出典　学生課資料：鳴門教育大学国際交流基金奨学金支給実績）

資料　112－01

「鳴門教育大学国際交流事業を援助する会における支援口数（平成16年度～平成21年度）」



	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
支援口数	2412	2809	3398	3543	3569	3353

（出典　学生課資料：鳴門教育大学国際交流事業を援助する会における支援口数）